第 3 章　新入生および保護者調査の結果

—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生401名、新入生の保護者394名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を中心に、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較しながら、学生生活支援における今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の 2 点を明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

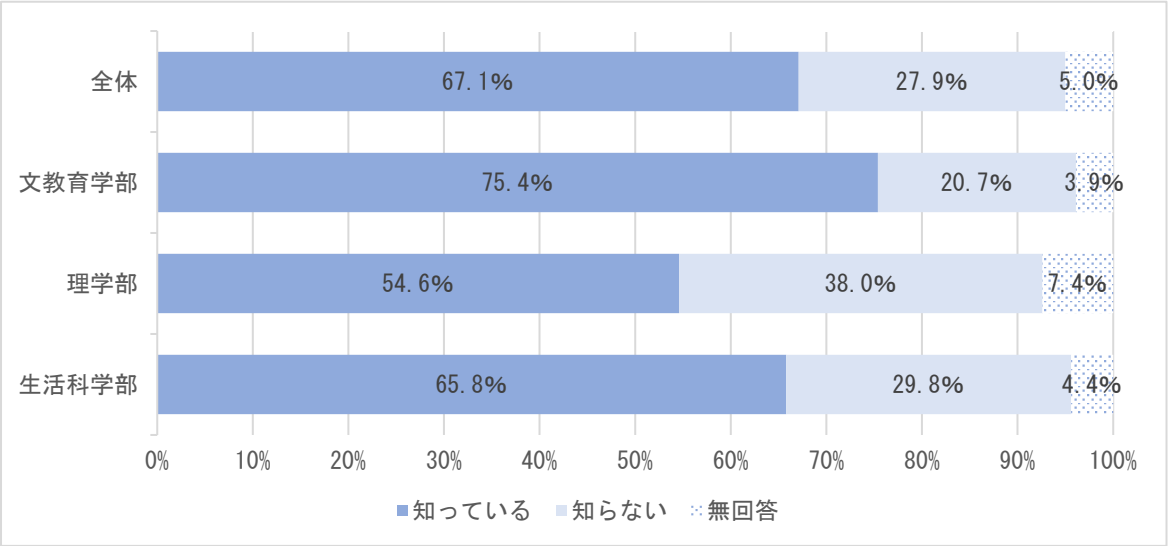
①　新入生の結果

＜奨学金等制度の認知と受給経験＞

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

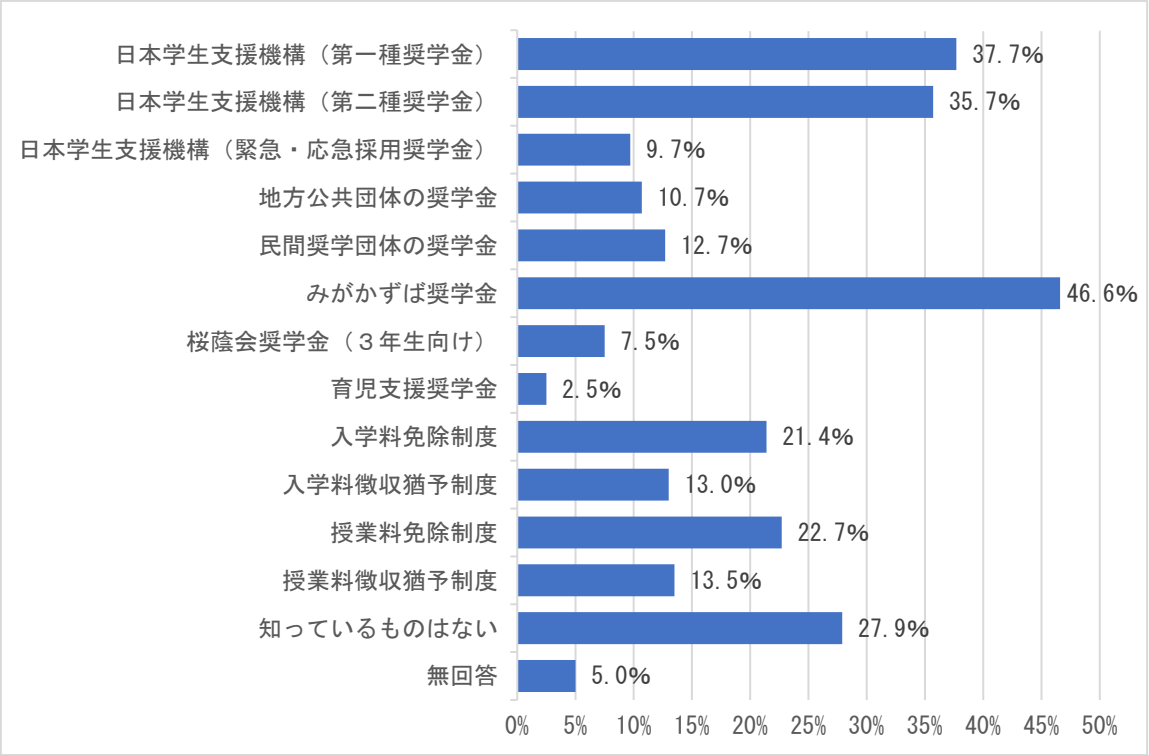
全体では67.1%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、54.6%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表 1-1　学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果

である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で46.6%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が37.7%、35.7%と続いている。また、「知っているものはない」が27.9%であり、これは昨年度の26.7%と比べて上昇傾向である。



図表 1-2　奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が3.5%と最も多く、「学費免除」が3.2%であった。ほかの奨学金等制度の受給経験は1～2%程度の割合を示している。

図表 1-3　制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等制度名称	日本学生支援機構	地方公共団体	学校独自	民間奨学団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けたことがある	2.2%	1.7%	1.5%	1.7%	0.0%	0.7%	3.2%	3.5%

＜奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検討を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表 1-4　きょうだい数と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	42	26	68
		%	61.8%	38.2%	100.0%
	2人きょうだい	度数	152	62	214
		%	71.0%	29.0%	100.0%
	3人以上	度数	74	24	98
		%	75.5%	24.5%	100.0%
合計		度数	268	112	380
		%	70.5%	29.5%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表 1-5　出身高校設置者と奨学金認知の クロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	173	66	239
		%	72.4%	27.6%	100.0%
	私立	度数	77	39	116
		%	66.4%	33.6%	100.0%
	国立	度数	18	6	24
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	海外	度数	1	1	2
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	269	112	381
		%	70.6%	29.4%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いとの分析結果である。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 1-6　奨学金受給経験と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	229	106	335
		%	68.4%	31.6%	100.0%
	経験あり	度数	40	6	46
		%	90.9%	9.1%	100.0%
合計		度数	269	112	381
		%	70.6%	24.9%	100.0%

** 注 ***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金等制度について、入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生のほうが認知の割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 1-7　入学後の予定住居と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の予定住居	実家以外	度数	123	35	158
		%	77.8%	22.2%	100.0%
	実家	度数	145	76	221
		%	65.6%	34.4%	100.0%
合計		度数	268	111	379
		%	70.7%	29.3%	100.0%

* 注 ***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額が高いほど奨学金の認知率が下がる傾向である。昨年度までは有意な関連があったが、今回では有意性が確認できなかった。

図表 1-8　仕送り額と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	7	1	8
		%	87.5%	12.5%	100.0%
	5万円未満	度数	19	3	22
		%	86.4%	13.2%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	51	9	60
		%	85.0%	15.0%	100.0%
	10万円以上	度数	41	19	60
		%	68.3%	31.7%	100.0%
合計		度数	118	32	150
		%	78.7%	21.3%	100.0%

n.s.　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度と同様に、学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高い結果であり、有意な関連が見られた。

図表 1-9　学生寮認知と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	201	39	240
		%	86.2%	16.3%	100.0%
	知らない	度数	68	72	140
		%	48.6%	51.4%	100.0%
合計		度数	269	111	380
		%	70.8%	29.2%	100.0%

***　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

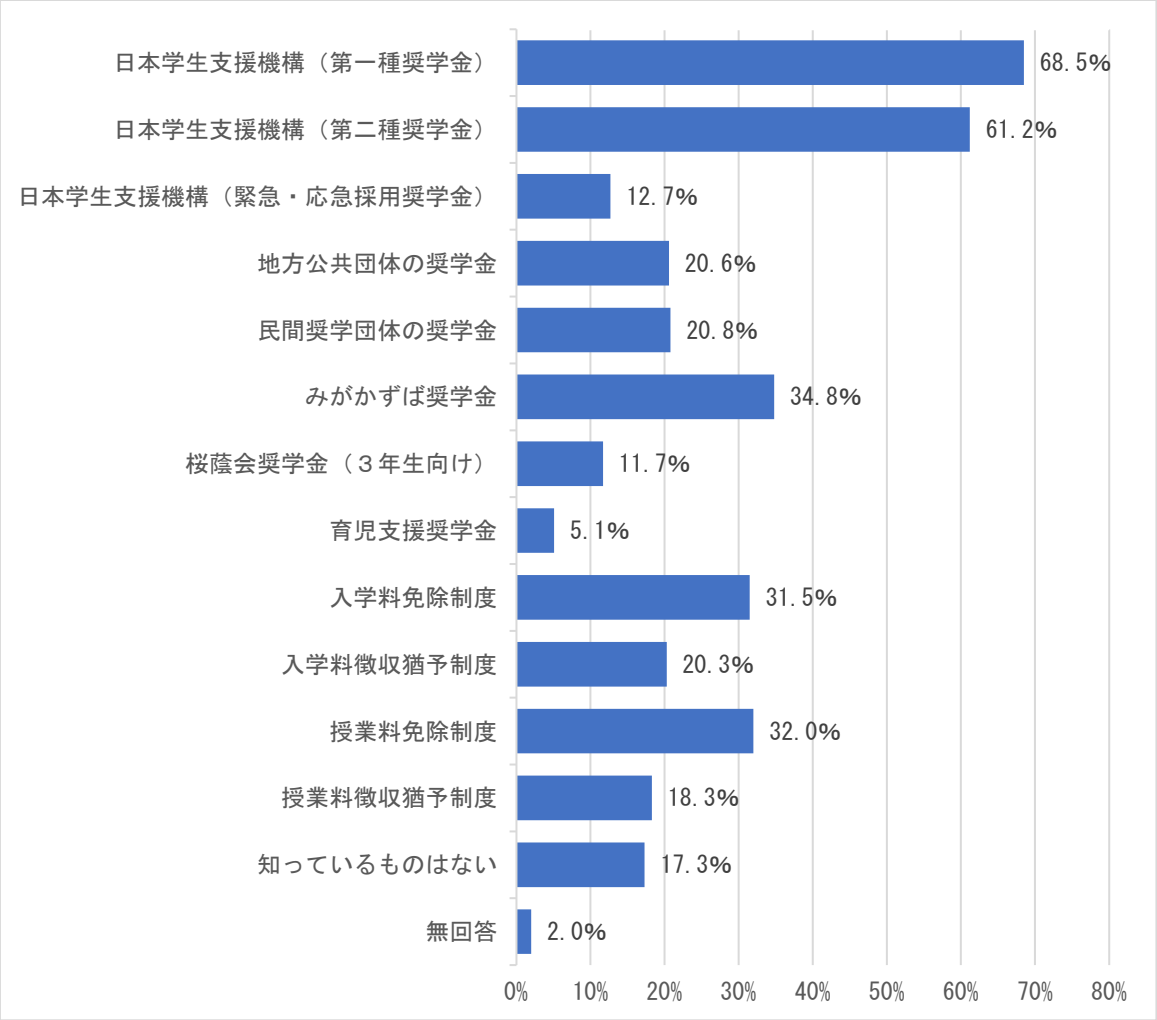
② 保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

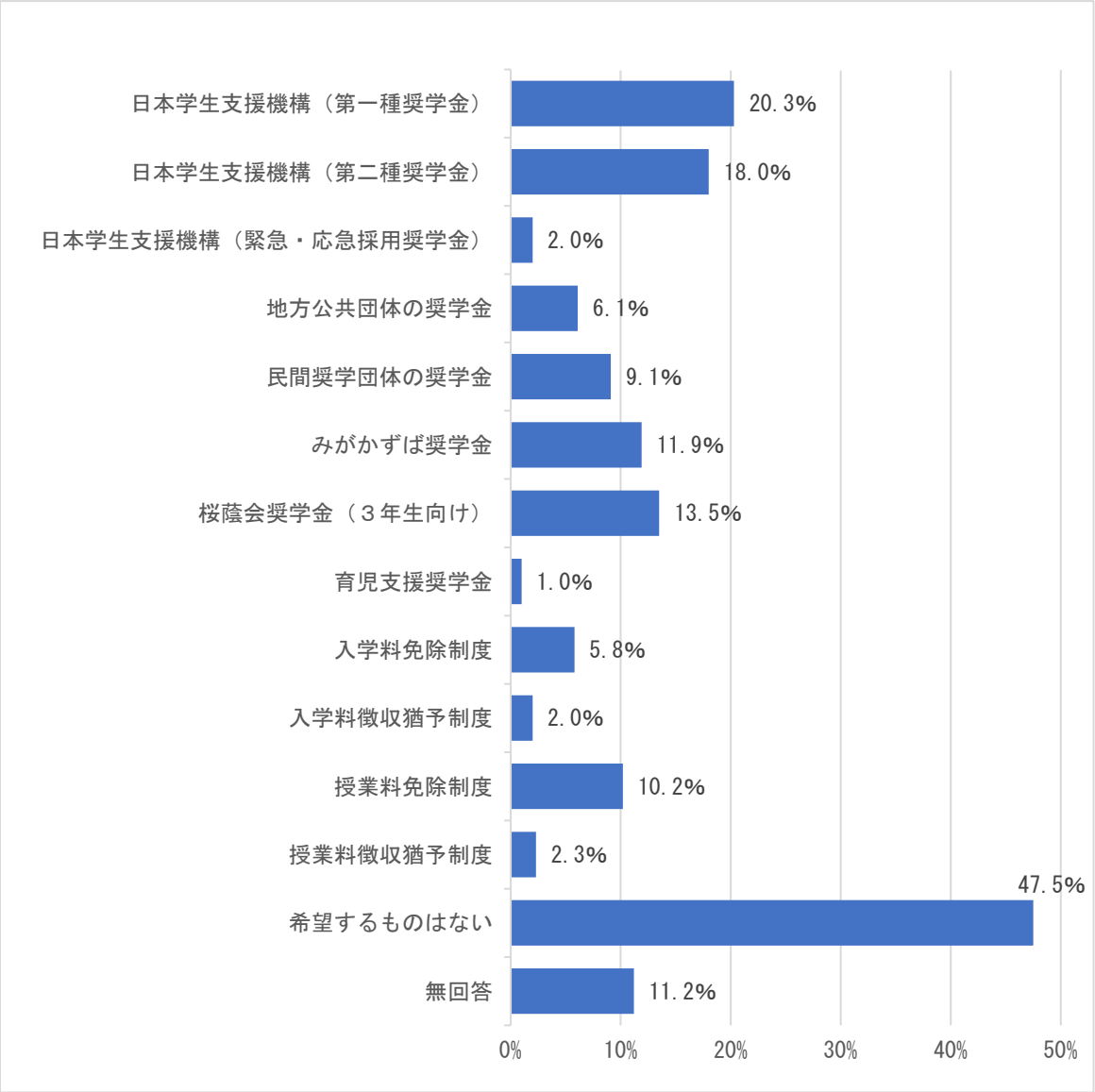
奨学金制度に関しては、最も認知率が高いのは日本学生支援機構第一種の68.5%であり、第二種が61.2%と続く。平成31年度の「新入生の生活に関する調査報告書」保護者回答と比較すると、「授業料免除制度」、「入学料徴収猶予」、「授業料徴収猶予」のいずれの制度の認知率も上がっており、「知っているものはない」という回答は、昨年度よりも2.5ポイント低くなった。



図表 2-1　保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。日本学生支援機構（第一種奨学金）はもっとも利用希望率が高かった。日本学生支援機構（第二種奨学金）はその次であった。本学独自の奨学金である「桜蔭会奨学金（3 年生向け）」と「みがかずば奨学金」が第三位、第四位と続く。昨年度を除いた以前の「新入生の生活に関する調査報告書」では、日本学生支援機構（第一種奨学金）が最も高い利用希望率であり、本年と同じ結果となっている。

また、「希望するものはない」と回答した割合が 47.5%であり、昨年度 5.7 ポイントほど減っている。



図表 2-2　奨学金等制度の利用希望

＜奨学金希望と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、昨年度と同様に統計的に奨学金を希望する割合が高いという傾向がみられた。ただし、母親が家計支持者であるものは 26 名と少ない傾向である。

図表 2-3　家計支持者と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父***	度数	140	183	323
		%	43.3%	56.7%	100.0%
	母***	度数	26	5	31
		%	83.9%	16.1%	100.0%
	本人 n.s.	度数	1	0	1
		%	100%	0	100.0%
合計		度数	163	186	349
		%	46.7%	53.3%	100.0%

注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「いない」と奨学金を希望する割合が統計的に高い傾向がみられた。ただし、父親がいないものは 17 名、父親がいた場合もフルタイム勤務以外のパートタイム勤務、自営、無職は合計して 17 名と少なく、奨学金希望と父親の就労形態には、統計的に有意な関連が見られた。

図表 2-4　父親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	129	172	301
		%	42.9%	57.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	3	0	3
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営	度数	13	12	25
		%	52.0%	48.0%	100.0%
	無職	度数	1	0	1
		%	100.0%	0%	100.0%
	いない	度数	17	2	19
		%	89.5%	10.5%	100.0%
合計		度数	163	186	349
		%	46.7%	53.3%	100.0%

***　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。有職母親の就労形態は「フルタイム」、「パートタイム」、「自営」それぞれであるが、奨学金の希望率はほぼ同じである。昨年度では「自営」もしくは「いない」と回答した場合、奨学金を希望する割合が高く、それ以外の場合は奨学金を希望する割合が低い傾向がみられたが、今年度は「無職」のほうが奨学金の希望率が低い。ただし、「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には有意な関連が見られなかった。

図表 2-5　母親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	46	50	96
		%	47.3%	52.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	75	80	155
		%	48.4%	51.6%	100.0%
	自営	度数	10	10	20
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	無職	度数	31	47	78
		%	39.7%	60.3%	100.0%
合計		度数	162	187	349
		%	46.4%	53.6%	100.0%

n.s.　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-6　入学後の暮らし向きと奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	132	51	183
		%	72.1%	27.9%	100.0%
	ゆとりがある	度数	27	133	160
		%	16.9%	83.1%	100.0%
合計		度数	159	184	343
		%	46.4%	53.6%	100.0%

***　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。昨年度と同様に、世帯年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が800万円以上1000万円未満の場合には奨学金を希望する割合が低下する。一

昨年度は1000万円以上から奨学金を希望する割合が低下する傾向であった。

図表 2-7　世帯年収と保護者の奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	20	1	21
		%	95.2%	4.8%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	23	5	28
		%	82.1%	17.9%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	37	19	56
		%	66.1%	33.9%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	41	42	83
		%	49.4%	50.6%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	22	48	70
		%	31.4%	68.6%	100.0%
	1200万円以上	度数	20	70	90
		%	22.2%	77.8%	100.0%
合計		度数	163	185	348
		%	46.8%	53.2%	100.0%

***　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低下する傾向が見られた。これは、昨年度と同様の結果である。

図表 2-8　家計支持者年収と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	23	3	26
		%	88.5%	11.5%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	36	8	44
		%	81.8%	18.2%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	49	37	86
		%	57.0%	43.0%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	27	50	77
		%	35.1%	64.9%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	17	40	57
		%	29.8%	70.2%	100.0%
	1200万円以上	度数	10	47	57
		%	17.5%	82.5%	100.0%
合計		度数	162	185	347
		%	46.7%	53.3%	100.0%

***　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表2-9は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 2-9　奨学金受給経験と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	126	174	300
		%	42.0%	58.0%	100.0%
	経験あり	度数	35	11	46
		%	76.1%	23.9%	100.0%
合計		度数	161	185	346
		%	46.5%	53.5%	100.0%

***　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 2-10 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 2-10　学生寮認知と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	99	100	199
		%	49.7%	50.3%	100.0%
	知らない	度数	64	87	151
		%	42.4%	57.6%	100.0%
合計		度数	163	187	350
		%	46.6%	53.4%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表2-11は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度の結果と同様の結果であった。

図表 2-11　学生寮希望と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	59	23	82
		%	72.0%	28.0%	100.0%
	希望しない	度数	100	162	262
		%	38.2%	61.8%	100.0%
合計		度数	159	185	344
		%	46.2%	53.8%	100.0%

***　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

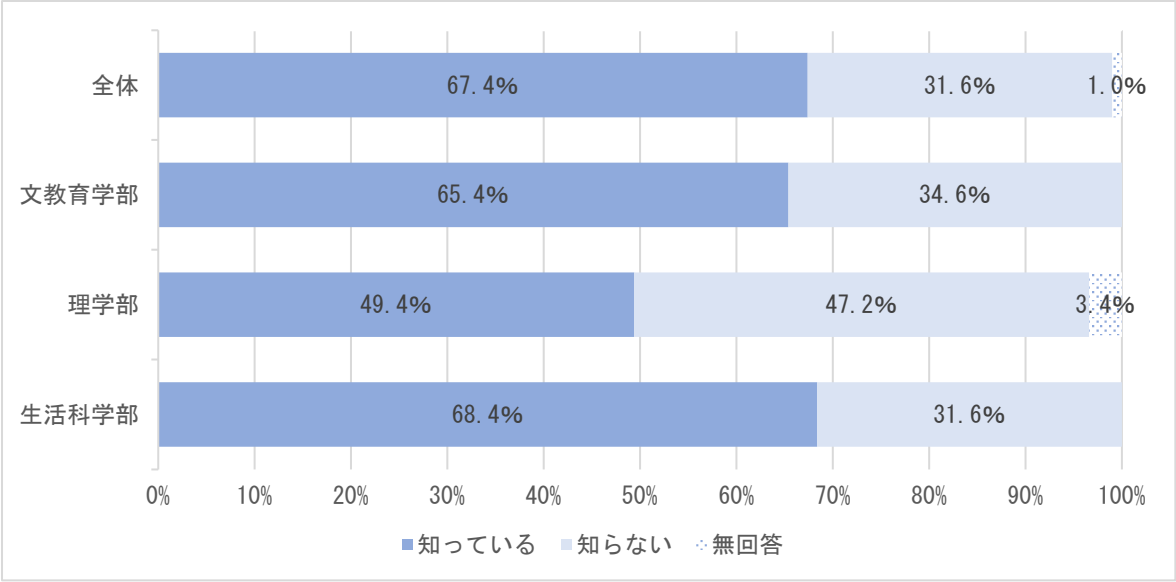
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

<学生寮の認知>

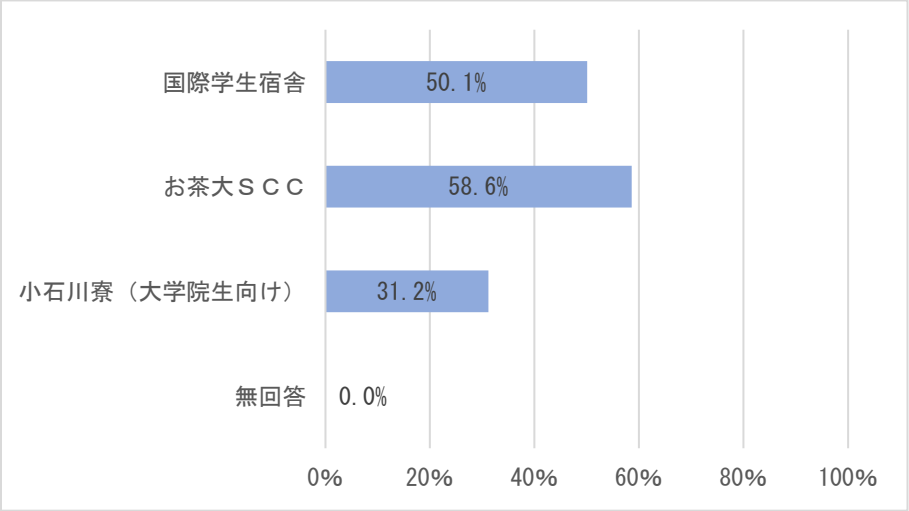
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では67.4%の新入生が学生寮について認知している。

学部別にみると、理学部が他学部に比べて低い結果となっており、これは昨年度、一昨年度の調査でも同様の結果であった。



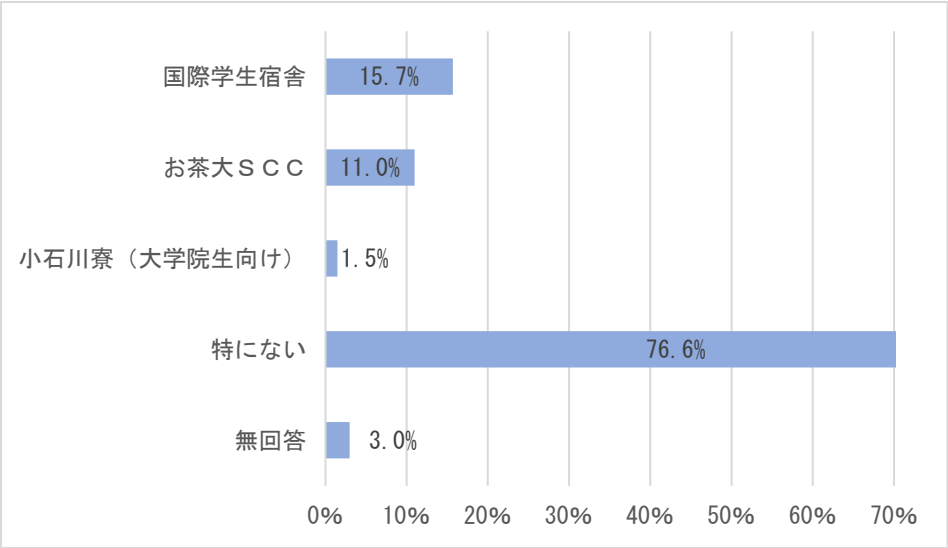
図表 3-1　本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には自治寮である国際学生宿舎（学部生対象）、小石川寮（大学院生対象）、教育寮であるお茶大 SCC（学部 1・2 年生対象）の 3 つの学生寮がある。認知率は、お茶大 SCC が 58.6%と最も高く、次いで国際学生宿舎 50.1%、小石川寮 31.2%であった。



図表 3-2　本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特にない」と回答した新入生が最も多く 76.6%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 15.7%で、お茶大 SCC を希望する学生は 11.0%、小石川寮は 1.5%であった。



図表 3-3　本学の学生寮への入寮希望（寮別）

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4～3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1 つでも知っているものがあれがば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 3-4　きょうだい数と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	40	32	72
		%	55.6%	44.4%	100.0%
	2人きょうだい	度数	141	82	223
		%	63.2%	36.8%	100.0%
	3人以上	度数	66	35	101
		%	65.3%	34.7%	100.0%
合計		度数	247	149	396
		%	62.4%	37.6%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表 3-5　出身高校設置者と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	160	92	252
		%	63.5%	36.5%	100.0%
	私立	度数	68	51	119
		%	57.1%	42.9%	100.0%
	国立	度数	19	5	24
		%	79.2%	20.8%	100.0%
	海外	度数	1	1	2
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	248	149	397
		%	62.5%	37.5%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には有意な関連はみられなかった。

図表 3-6　奨学金受給経験と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	213	134	347
		%	61.4%	38.6%	100.0%
	経験あり	度数	35	15	50
		%	70.0%	30.0%	100.0%
合計		度数	248	149	397
		%	62.5%	37.5%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表 3-7　居住予定の住居と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の居住予定	実家以外	度数	142	25	167
		%	85.0%	15.0%	100.0%
	実家	度数	104	124	228
		%	45.6%	54.4%	100.0%
合計		度数	246	149	395
		%	62.3%	37.7%	100.0%

***　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表 3-8　仕送り額と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	8	1	9
		%	88.9%	11.1%	100.0%
	5万円未満	度数	18	5	23
		%	78.3%	21.7%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	56	7	63
		%	88.9%	11.1%	100.0%
	10万円以上	度数	51	11	62
		%	82.3%	17.7%	100.0%
合計		度数	133	24	157
		%	84.7%	15.3%	100.0%

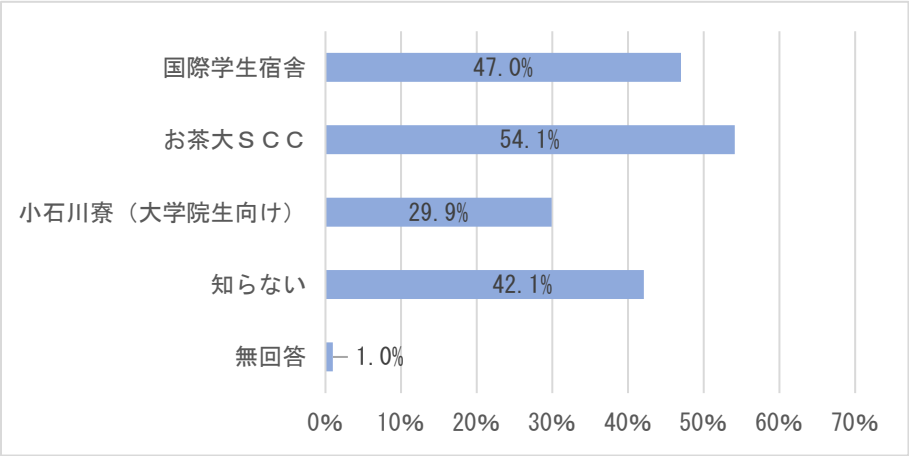
n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

②　保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

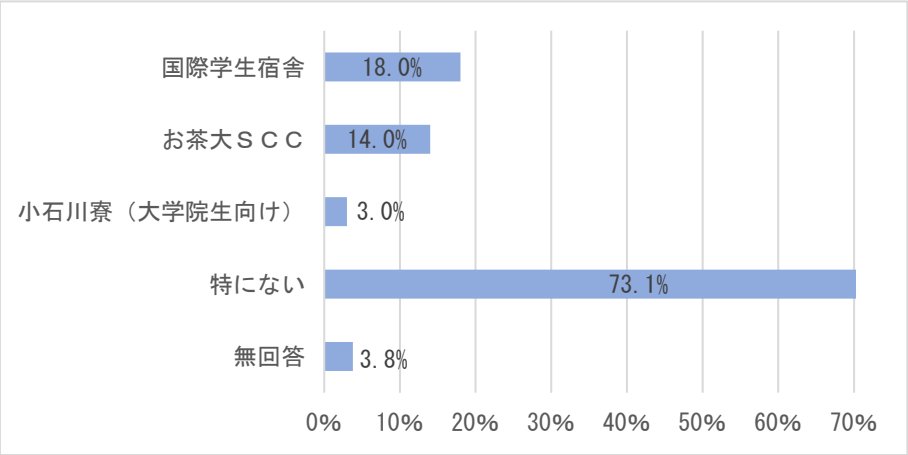
認知率が最も高かったのは、お茶大 SCC で 54.1%と最も高く、次いで国際学生宿舎が 47.0%、小石川寮は 29.9%であった。「知らない」と回答した割合は 42.1%であった。



図表 4-1　保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

国際学生宿舎への入寮希望が 18.0%、次いでお茶大 SCC が 14.0%、小石川寮が 3.0%であり、入寮希望について「特にない」が 73.1%であった。



図表 4-2　本学の学生寮への入寮希望

＜学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が父親または母親である場合には学生寮を希望する割合が高いという関連が見られた。

図表 4-3　家計支持者と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親*	度数	78	275	353
		%	22.1%	77.9%	100.0%
	母親**	度数	12	18	30
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	本人n.s.	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	90	288	378
		%	23.8%	76.2%	100.0%

注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」や「自営」の場合は入寮を希望する割合が統計的に低い傾向がみられ、その他の「パートタイム勤務」や「無職」、そして父親が「いない」場合は高い傾向がみられた。

図表 4-4　父親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	76	252	328
		%	23.2%	76.8%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	0	3	3
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	自営業	度数	6	21	27
		%	22.2%	77.8%	100.0%
	無職	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	いない	度数	8	11	19
		%	42.1%	57.9%	100.0%
合計		度数	91	287	378
		%	24.1%	75.9%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表4-5は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親が「フルタイム勤務」や「自営業」の場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし「母親の就労形態」と「入寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表 4-5　母親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	31	72	103
		%	30.1%	69.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	36	125	161
		%	22.4%	77.6%	100.0%
	自営業	度数	6	16	22
		%	27.3%	72.7%	100.0%
	無職	度数	17	74	91
		%	18.7%	81.3%	100.0%
	いない	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	90	288	378
		%	23.8%	76.2%	100.0%

n.s.　　注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 4-6　入学後の暮らし向きと入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	74	123	197
		%	37.6%	62.4%	100.0%
	ゆとりがある	度数	15	157	172
		%	8.7%	91.3%	100.0%
合計		度数	89	280	369
		%	24.1%	75.9%	100.0%

*** 注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。もっとも入寮希望が高かったのは「400 万円以上 600 万円未満」の世帯年収のものであり 42.9%であり、ついで「600 万円以上 800 万円未満」の 39.7%であった。世帯年収が上がると、入寮希望の割合が低くなる傾向がみられた。

図表 4-7　世帯年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	7	15	22
		%	31.8%	68.2%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	12	16	28
		%	42.9%	57.1%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	23	35	58
		%	39.7%	60.3%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	23	67	90
		%	25.6%	74.4%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	17	63	80
		%	21.3%	78.8%	100.0%
	1200万円以上	度数	9	89	98
		%	9.2%	90.8%	100.0%
合計		度数	91	285	376
		%	24.2%	75.8%	100.0%

*** 注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が高くなるほど、学生寮を希望する割合が低くなる傾向であり、有意な関連がみられた。これは昨年度と同じ結果であった。

図表 4-8　家計支持者年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	8	19	27
		%	29.6%	70.4%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	19	26	45
		%	42.2%	57.8%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	35	55	90
		%	38.9%	61.1%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	18	67	85
		%	21.2%	78.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	7	57	64
		%	10.9%	89.1%	100.0%
	1200万円以上	度数	4	60	64
		%	6.3%	93.8%	100.0%
合計		度数	91	284	375
		%	24.3%	75.7%	100.0%

*** 注 ***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表4-9は「奨学金受給経験」と「入寮の希望」のクロス表である。今年度の調査では昨年度同様に、奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い結果を示した。

図表 4-9　奨学金受給経験と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生の奨学金受給経験	経験なし	度数	76	253	329
		%	23.1%	76.9%	100.0%
	経験あり	度数	15	33	48
		%	31.3%	68.8%	100.0%
合計		度数	91	286	377
		%	24.1%	75.9%	100.0%

n.s. 注 ***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

図表 4-10 は「学生寮認知」と「入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く有意な関連がみられた。

図表 4-10　学生寮認知と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	87	128	215
		%	40.5%	59.5%	100.0%
	知らない	度数	4	160	164
		%	2.4%	97.6%	100.0%
合計		度数	91	288	379
		%	24.0%	76.0%	100.0%

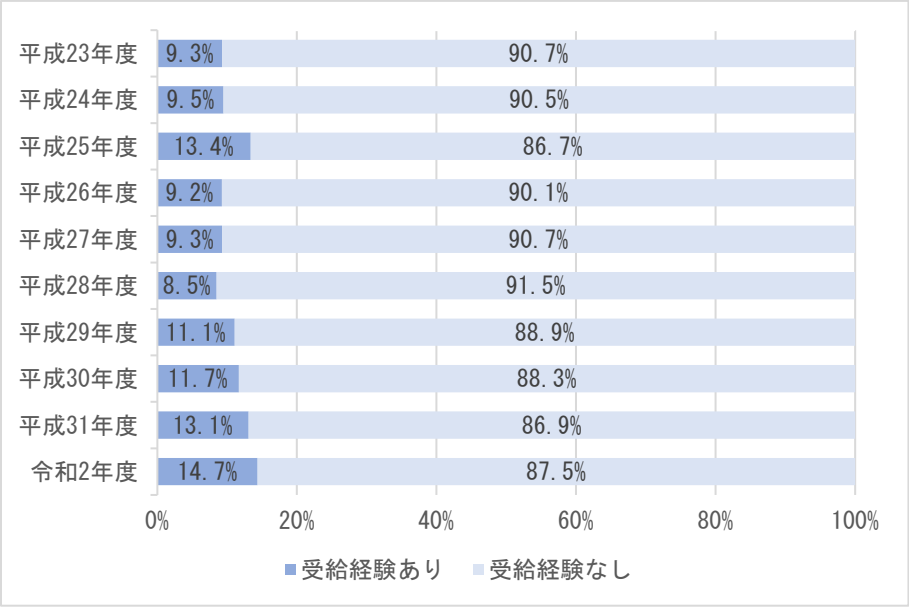
*** 注　***p<.000, **p<.01, *p<.05, n.s.（not significiant）

（4）奨学金と学生寮について、過年度との比較

①　新入生

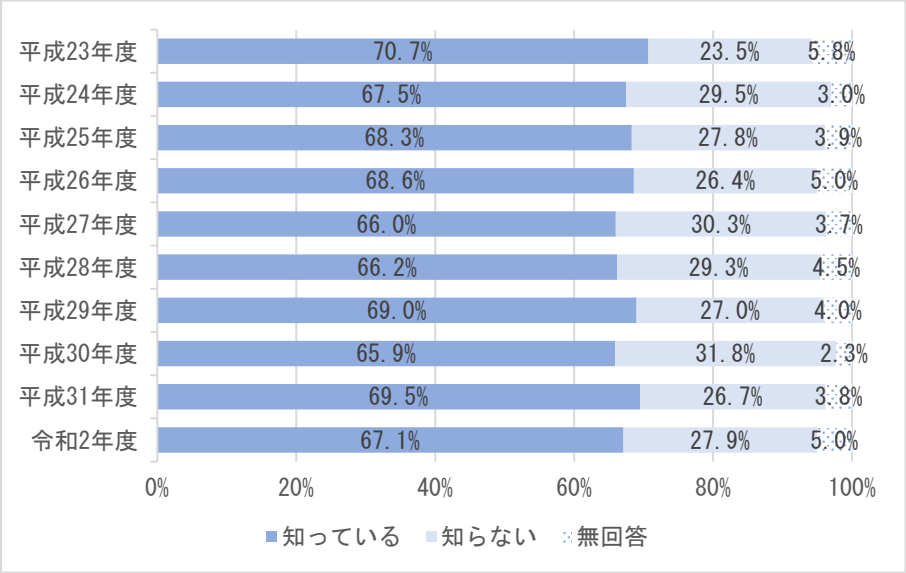
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去９年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表 5-1～5-3 に示す。

図表 5-1 は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去９年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が 14.7%であり、本調査が始まって以来の最も高い割合を示した。



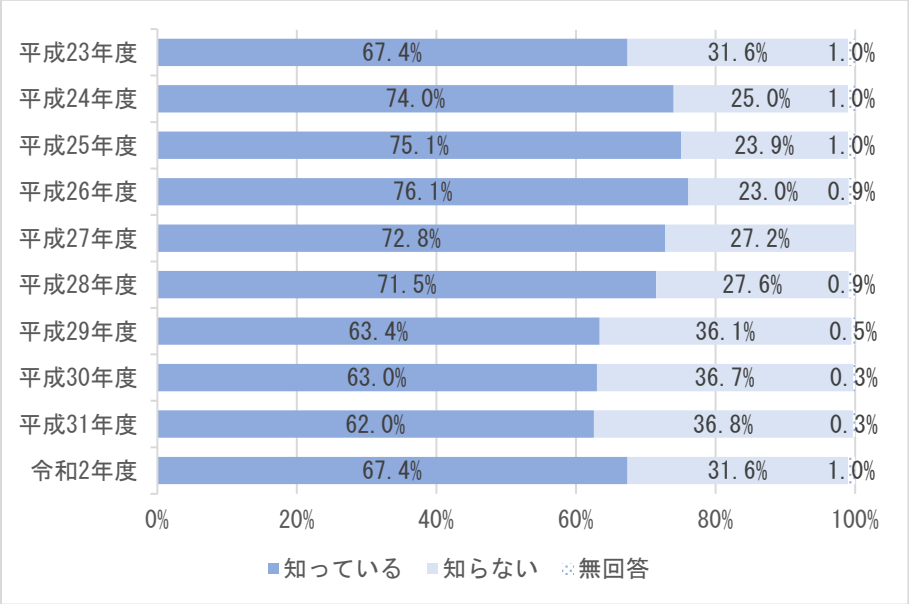
図表 5-1　新入生の奨学金等制度受給経験　過年度比較

図表 5-2 は新入生の奨学金等制度の認知について過去９年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が 67.1%である。



図表 5-2　新入生の奨学金等制度の認知　過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 9 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率については、平成 26 年度以降認知率が低下し続けたが、今年度調査では、「知っている」が 67.4%と上昇が見せた。

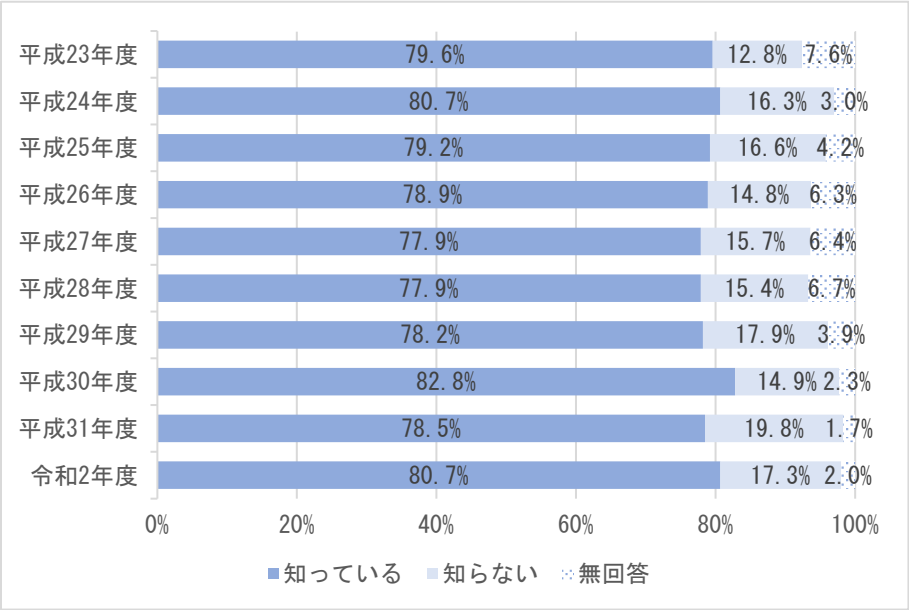


図表 5-3　新入生の学生寮の認知　過年度比較

②　保護者

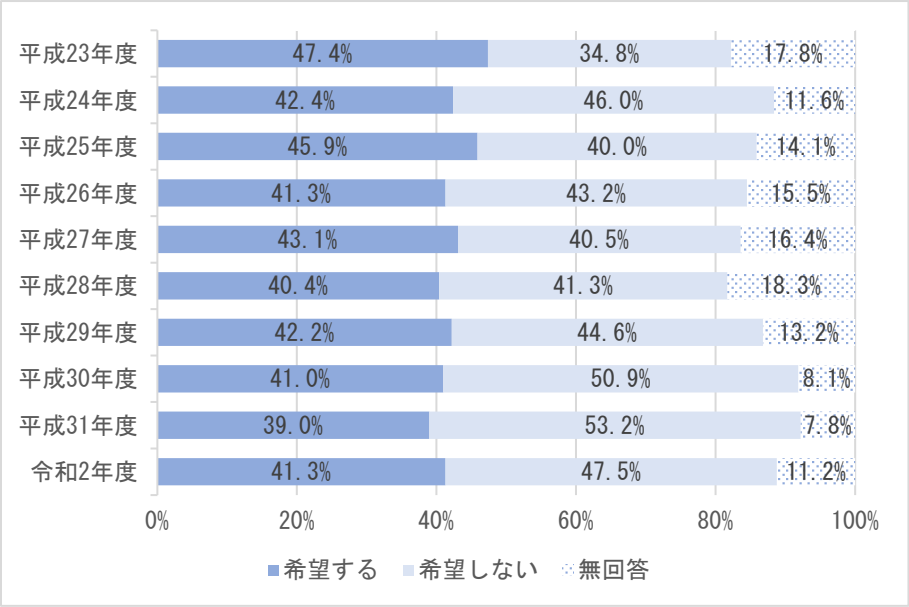
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 9 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す。

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 9 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 80.7%であり、昨年度の調査からは、約 2.2 ポイント上がった。「知らない」が 17.3%であった。



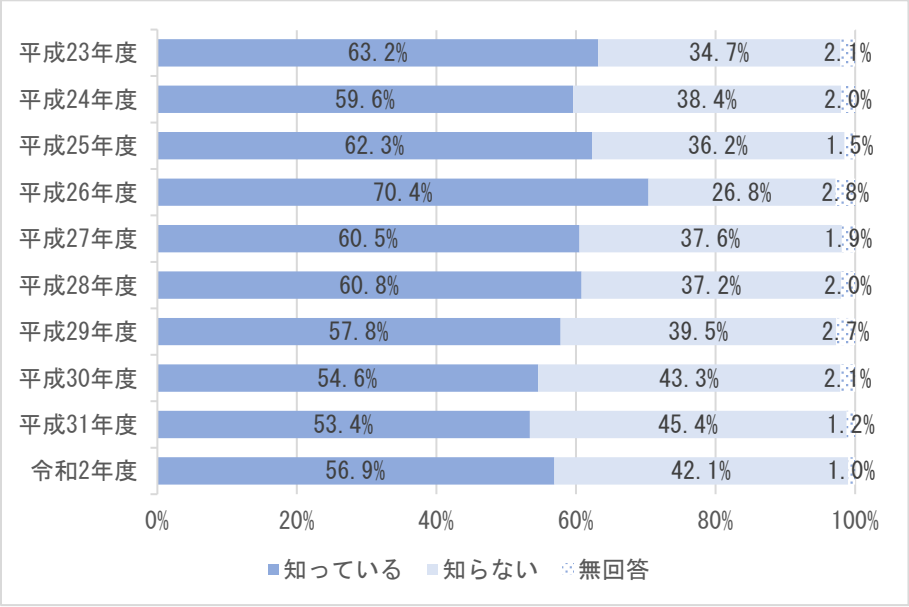
図表 6-1　保護者の奨学金等制度の認知　過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去９年間の結果と比較したものである。昨年度の調査では奨学金を希望しない」と回答した割合が過去の調査と比べて最も高い結果となったが、今年度の調査結果では奨学金の希望率が昨年度と比べ、やや増加する傾向が見られた。



図表 6-2　保護者の奨学金等制度利用希望　過年度比較

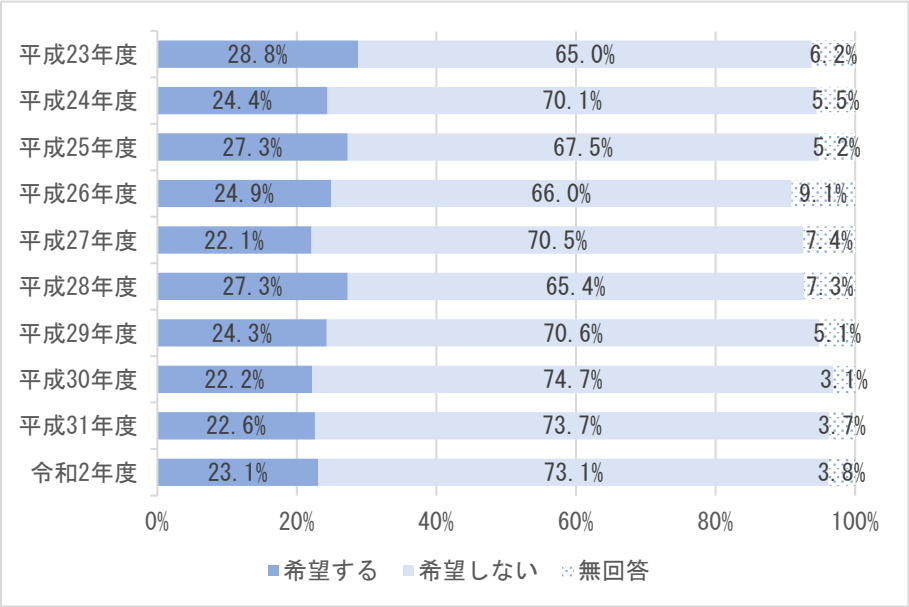
図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去９年間の結果と比較したものである。昨年度は過去の調査の中で最も低い認知率を示していたが、今年度は 56.9%となり、昨年度より約 3.4 ポイント増加した。



図表 6-3　保護者の学生寮の認知　過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去９年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合は 23.1%、「希望しない」と回答した割合は 73.１%で

ある。



図表 6-4　保護者の学生寮利用希望　過年度比較